

# 御嶽山噴火の教訓

## 1. 御嶽山噴火の概要

- (1) 発生日時 2014 (H 26) 年 9 月 27 日 (土) 午前 11:52
- (2) 発生場所 御嶽山 (3,067m) 頂上直下 「水蒸気噴火」⇔「マグマ噴火」
- (3) 人的被害 10 月 23 日現在
  - 死亡者 57 人
  - 行方不明者 6 人
  - 負傷者 69 人

## 2. 対策

### (1) 事前調査・準備等

- ① 常時観測対象火山の確認 …活火山 110 のうち 47 火山で常時観測
- ② 最近の活動状況・噴火警戒レベルの確認 …常時観測火山 47 のうち 30 火山で運用  
\* 気象庁「<http://www.jma.go.jp>」の「各火山の活動状況」を参照
- ③ 避難場所（シェルター、山小屋等）の確認 …シェルターが有るのは 11 火山
- ④ 登山計画書（届）の提出
- ⑤ 装備の点検 …ヘルメット、サングラス、マスク、救急薬品、ストックなど
- ⑥ 身分証（保険証）の携帯

### (2) 被災時の対応

- ① 予兆（揺れ・異臭等）を感じたら、地形や風向等を考慮して臨機の措置を取る。  
（濃霧が突然晴れだし、卵の腐ったような臭いがしたとの証言も…）
- ② 噴火口や噴煙から迅速に避難する。（山小屋、物陰・岩陰など、谷筋は危険）
- ③ 口や鼻をマスクや濡れたタオル等で覆い、熱い空気や噴煙等を直接吸い込まない。  
\* 1 人の肺は 70℃以上の空気では焼けてガス交換ができなくなり、窒息してしまう。  
2 口や喉が焼けて水分補給や呼吸ができなくなる。
- ③ 帽子、長袖の服、手袋等を着用して、肌を直には露出しない。
- ④ ヘルメットを被ったり、ザック等で頭部を覆い、噴石から頭を護る。  
（コッヘル、魔法瓶が緩衝材となった実例も…）
- ⑥ サングラスをかけて眼を護る。（眼に異物が入った場合は水で洗い、こすらない。）  
\* コンタクトレンズは、角膜剥離を起こす危険があるので外す。

噴煙が迫ってきたら、火口に背を向け、手で口を覆って空間を作り、地面に伏せる。